

2022年5月27日

大阪公立大学医学部附属病院長選考について
<理事長コメント>

選考会議からの被推薦者を任命しなかったという今回の私の決断（3月22日）は、まさに苦渋の決断であり、ひとえに新大学のガバナンスのあり方に禍根を残してはならないという思いでの決断でありました。

ご審議をお願いした経営審議会『ガバナンス改革部会』からのご提言（4月28日）の趣旨は、「選考会議はきちんと手続きを踏んで選考して候補者を推薦したが、理事長はその候補者を法人ガバナンス上の理由で任命せず、その結果、今回は「該当者なし」ということ」であると受け止めています。

法人としては、ご提言を踏まえた役員会（5月17日）での審議結果のとおり、「前学長を病院長に任命することはない」という区切りをつけ、このことを医学部・附属病院の皆さんにも共有していただき、新たな病院長選考規程の整備を急ぎ、病院長選考をスタートさせ、一刻も早い事態の収拾に全力を尽くします。

なお、ご提言では多くの紙幅を割いて、理事長の選考プロセスへの介入、法人のガバナンスの不作為についての問題を厳しく指摘され、その責任を明らかにすべきとされています。これらを真摯に受け止め、新大学スタートという重要な時期にこのような事態を招いて申し訳ないという思いとともに、法人トップとしての責任の重さを十分に認識しております。